

2010年3月1日

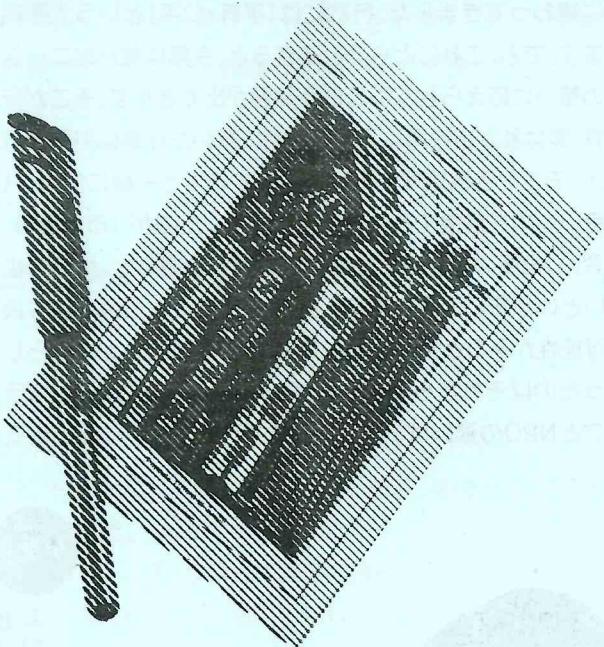
Vol.68

みみ んん



【題字】 谷川俊太郎さん

MY FAVORITE お気に入り小物拝見



理事対談ゲストの奥山恵美子仙台市長が取り出されたのは、七夕の吹き流しや、仙台駅前など、「これを仙台！」と言える写真の絵ハガキとペン。(写真は吹き流し)「まことにハガキを出します。いろんなハーバージョンを用意してますけど、今日は仙台にちなんだものを持ってきました。サインを求めることが多い、ペンは「べんてる」のO・アーニーを愛用しています。リンクの吸い込みがすごくいいんですよ。」お仕事ツールでもありながら、お気に入り小物でもあるグッズでした。

■目次

- P2~4 理事対談(仙台市長 奥山恵美子さん／常務理事 紅邑晶子)
P5~6 せんたい・みやぎNPOセンターの事業から
(2009年12月—2010年1月)
P7…… 仙台サポセン新たな5年に向けて／新スタッフ紹介
P8…… 新規会員・継続会員／編集後記／お知らせ／連絡先等

理事対談

東京にはない、「仙台」だからこそその街づくり

今回の理事対談ゲストは、奥山恵美子仙台市長。「この後、仙台駅で村井(宮城県)知事とご一緒に仕事をなんですよ。」と、この日もお忙しいスケジュールをぬってお越し頂きました。当センターの紅昌晶子常務理事とは以前からのお知り合いということで、わきあいあいとした雰囲気のなか始まりました。

■市民活動先進都市の種は市民の中に！

紅昌：奥山さんは市民協働ということをマニフェストに掲げいらっしゃいます。そのあたりからお話を聞かせてください。

奥山：市長になるまで、私は30年以上、仙台市役所の職員として行政に携わってきました。行政には「平等・公平」という大原則があります。でも、これにとらわれすぎると、今度は個別のニーズや具体的な想いに応えられないという問題が出てきます。そこが行政の限界。実は私が市役所に入って最初に就いた仕事は消費者行政でした。そこで苦情処理や市民運動をする人と一緒に仕事をし、より良いものを目指すという理想を共有したのが、「市民協働」との出会い。役所の持つ公平性や平等という仕組みと、地域をよくしたいという想いの両方で支えあうことにより、社会がより良くなる可能性があると気付いたんです。それをNPOとかいうらしいと知ったのはそれから10年以上経った後でしたけれど。ボランティアとNPOの違いは、一人一人のボランタリーな想いに支え

られた個人単位の活動か、組織単位で責任を持つ活動かということ。ボランティアの限界を乗り越えられる可能性みたいなことがその時分からてきたんです。

紅昌：私がNPOということを知ったのは1995年頃でした。その時はNPOという言い方をしていなかったし、市民活動は特殊な人がするもんだという認識でした。行政に対して苦言を呈する人タイコールNOという人々という。そこから、ただNOと言つるだけでは変わらないという人が出てきて、じゃ自分たちは、企業は、行政は何をすべきかということと一緒に考えていこうとなつたのが、バブルがはじけたあたりの動きだと聞いています。そして阪神淡路の震災が95年、その時にボランティアに対するイメージが大きく変わりました。組織化された市民活動団体が、行政のパートナーとしての可能性を実感させたのもその時でした。各政党もこぞって新法律を出してきて、講師に市民活動団体をよんで議員たちが勉強会をしたんですね。そこでいろいろと現場の声を拾つて現在の法律になったんです。ちょうどその頃、仙台市も何かと変革があったと思うのですが、実際、どうだったのでしようか？

奥山：仙台市は1993年あたりが大激変の年でした。ゼネコン汚職で当時の市長が逮捕された年です。どうやってクリーンな街にしていくか、どう変革していくか悩み、知恵を絞り、そんな中で市長に就任した藤井さんが、行政と市民活動団体とが協働するしかないと訴えた。今、仙台市は市民活動先進都市と言われています。ただし誤解してはいけないのは、行政がそれを準備して、例えば仙台市市民活動サポートセンター(以下サポセン)のような「ハコ」を整えたのではないということです。最初に街の危機的状況を憂いた市民の研究母体があって、そこに市職員が入っていき、それがある時点で正式な役所内の委員会になり、その提言でサポセンが作られ、という流れが本当なんです。元々の本筋は民間にあったということを、我々行政はきちんと受け止めないといけない。役所が種まきをしたのではなく、種は仙台市民の中にあったんです。

紅昌：すごく大事なことです。私たち団体側ももしかしたら勘違いしているかもしれません。行政に何かを求めるだけではなく、提案していく、もしくは一緒に解決するパートナーなんだと思います。最近よく「協働」ということばを耳にしますが、それをサポートする場としてサポセンが設けられたんですよね。仙台でもそうでしたが、危機に陥った時こそ変革のチャンスだし、その時それぞれが持っている力が発揮されやすいということを、今お話を聞きながら思い出しました。

奥山：そう、危機は一つのチャンスです。業界と政治と行政でうまくいっている中では、市民の力は求められない。既存の人や組織で行き詰ったとき新しい力が必要になる。うまくいかないことがあるからこそ、市民の持つ意思とか志とか知恵とかが求められるんだと思います。

ゲスト

奥山
恵美子さん
仙台市長



■奥山市政のリーダーシップとは？

紅邑: この国も昨年政権交代して、既存のやり方を変えていくエネルギーはもの凄いと思います。それは奥山さんも今、同じ立場ではないかと思います。府内・外の力ということでは、奥山さんはどのように取り組まれていますか。

奥山: 所詮、私一人の力は知れたものです。選挙の時にもお話ししましたが、毛利元就の3本の矢のように、1本でダメなら2本、3本重ねていく。異なるものの出会いから新しいものが生まれる。それは市民活動の基本もあります。異質のものが集まって新しい次元に移るという、そんな変革を期待しています。仙台には同質なもので力を大きくしようとする素地が少なく、単一のものに組まれることを是としない空気がありました。このため、従来は「ドングリの背比べ」と呼ばれる状態であったものが、時代が変わり、多様性として評価されるようになり、いつしか仙台のウイークポイントが全国的に評価される強みに転化していったんです。次は、それを「束ねる」「一緒にする」という動きへの転換が求められる時期ではないかと思っています。

紅邑: 確かにそうですね。仙台は、1団体ずつはとても頑張っているけど、一緒に何かする、ということがなかなか出来ないでいる。今、それを乗り越える段階にあるかもしれません。

奥山: 私のリーダーシップは、数をまとめるリーダーシップでも、オレについてこい型でもありません。多様性を発掘し、同じ方向に向かわせていくリーダーシップ。そこが奥山市政の基本だと自覚しています。

紅邑: そういう新しいリーダーシップ像っていうのは、なかなか理解し難いところもあると思うし、抵抗もあるのではないかですか。

奥山: なかなか難しいですね。何をやっているのか分からぬといふところもあるし。あちこち歩き回って本当は何やりたいんだ？！って思われているかもしれません。

紅邑: そういう中で市長になられてからこれまで、これは手ごたえがあるなということを教えて頂きたいんですが。

奥山: 仙台の強みはハードよりやはりソフトだと思うんです。ひとと言いでいえば「知恵」みたいなもの。「学都」としての高等教育機関の集積はもちろんのこと、産業も結局は知恵で勝つ産業しか成り立たないと思うんです。市民活動の中でも、知恵と工夫の占める比重は大きい。最終的には、いかに知恵を生み出して戦っていくかっていう、その戦略に産業も大学も市民活動も、きちんと自覚的に立ち向かわなければならないなと思います。産業も市民活動も地域も、みんなの知恵の出し合いによって、この街がよくなるという街づくりをしていきたいですね。

■「出会い」の格差のない街、仙台に

奥山: 仙台の市民活動はだいたい3種類に類型化できるのではないかと思っています。一つはサボセンがあって、市民やグループが集って、せんだいCARESのような活動につながるもの。これはNPOが核になっています。二つ目は、SENDAI光のページメントのような市民発のイベントで、行政は大したお金も出していませんけど、ビジネスマンや自営業の方々も入ってお金の面でもちゃんとまわっている市民活動。三つ目は、ポイ捨て防止のアレマ隊とかクリーン仙台推進員のように、町内会の人たちがたくさん関わっているもの。仙台の強みは、こうした異なる類型の活動が別々に存在しているながら、各自に「我こそが市民活動である」と誇りを持ってやっているところではないでしょうか。これが1種類では街としては脆弱なんだと思います。地域の結束や強さ無しでNPOがあるっていうのも嘘くさいし、NPOの志はあるけどお金は集められないっていうのも悲しい。そういう意味で、この3種類が揃っているということはとても評価できる。あとは、それが持つ、お金を集める力、志を持つ力、PRする力なりをどうやって集結できるか、ヒト・モノ・カネをまわしながらつながりあえるかです。せんだいCARESのキャッチフレーズになっている「つながることがまちのチカラになる」ということがポイントじゃないかと思います。それなのにつながれない、出会えない…。こんなに狭い街でありながら、「出会えない」と言っている人が多いのに驚くんですが。

紅邑 晶子さん
せんだい・みやぎNPOセンター 常務理事





紅邑: そうですよね。つながっていく人はどんどんつながっていくけれど、一方でそういうのを求めていながらも、その場に恵まれない、出会えない人もたくさんいますよね。経済もそうですが、人との関わり具合にも「出会い」の格差があるような気がします。それをつないでいくのが地域社会のコミュニティじゃないかと。昔、コミュニティには、テーマコミュニティとローカルコミュニティと2つあるんだということを聞かされたことがあります。ローカルが地域社会で、テーマがNPOのことだと。ただ最近思うのは、ローカルだとかテーマだとかいう区別はもう意味がなくなってきたるんじゃないかなと思います。ローカルなんだけどテーマコミュニティにしていきましょうとNPOが出来たりしている例もあるし、全国的には町内会がそのままNPOになったりするところもあります。その境目はどんどん無くなってきていて、むしろ地域課題を、誰が何のためにどうやって解決するのかっていうことがポイントだと思います。そういう中で、なかなかつながれないでいる人たちに何を提供できるかを考えなきゃいけないんだと思うんです。

奥山: 今、紅邑さんがおっしゃった中でなるほどと思ったのは、出会いの格差ですね。出会える人はどんどん出会って、そこからビジネスにつなげていったりする。これから都市政策は公園や図書館の数といった基本事項に加えて、どれだけその街がそういう出会いの場を提供できるかが重要だと思うんです。例えば就職のことだけ考えたら東京の方がいいかもしれないけれど、本当に人間らしい出会いの場になっているか。仙台は、人間らしい生活を創っていくための出会いをたくさん提供できる街に意識的になっていくべきだと思ってます。この街にいると出会える、という街になっていれば、それはもう鬼に金棒。そのことがまた街を活性化させていくという好循環が生まれてくれればいいなと。

「記録・編集・小川真美」

大新年会+プロペラトーススペシャル

2010年1月13日、仙台市市民活動サポートセンター地下の市民活動シアターで、せんだい・みやぎNPOセンター主催の「大新年会+プロペラトーススペシャル」が行われました。当日は、寒波到来にも関わらず、NPOや団体、企業、行政の方々など51名の方々にご参加いただき、みなさん、職種を超えて交流を楽しまれていたようでした。

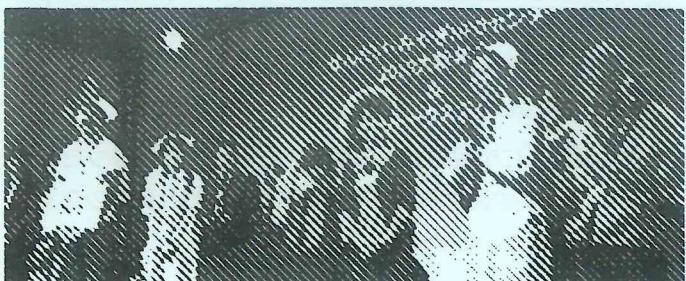
■プロペラトーススペシャル

今回は新年会に加えて、せんだい・みやぎNPOセンターが主催するプロペラトースの過去4回のダイジェスト版「プロペラトーススペシャル」もありました。プロペラトースは、街の中の素敵なカフェや飲食店で、トークライブをするという企画です。2009年度は「いのち」というテーマでゲストをお呼びして4回開催しました。毎回飲み物や軽食などをいただきながらのリラックスした雰囲気の企画で、大変好評をいただいております。この日は2回目のプロペラトースゲストの東北会病院院長の石川先生にもその時の様子を少しお話しいただき、一度に4回の内容がわかるお得な会となりました。

■せんだいCARESチャリティーオークション

今回の新年会ではせんだい・みやぎNPOセンターが運営するせんだいCARESのチャリティーオークションを開催しました。せんだいCARESは仙台で活動するNPOを紹介するキャンペーンで、主な活動としては、NPOの情報が詰まったパンフレットを制作し、仙台市内で配布したり、学生ボランティア体験のマッチング(CARESケアーズ)などを実施しています。

当日のオークションの品々は、(株)ベガルタ仙台さまよりいただいた選手のサイン入りボールやユニフォーム、当センター会員の詩人の谷川俊太郎さまからのサイン入りの本など、合計20点。ファンが見たら泣いて喜びそうな品々が次々と落札されていきました。最終的に集まった金額はなんと27100円!このオークションで集まった寄付金は、せんだいCARESの運営資金として大切に使わせていただきます。ご参加いただきましたみなさま、ありがとうございました。(田内亜紀子)



みやぎNPO夢ファンド 中間報告会

みやぎNPO夢ファンドでは、平成21年度に県内12のNPO団体に総額591万円の助成を行いましたが、その助成事業の成果を発表する中間報告会を、1月9日(土)、みやぎNPOプラザにて開催しました。

■お互いの成果を共有し、見つめ直す機会となった報告会

午前の部は、ステップアップ支援プログラムの4団体、午後の部は、組織開発(人材育成を含む)支援プログラムの3団体、スタートアップ支援プログラムの5団体によるプレゼンテーションと質疑応答を行いました。助成事業の成果をふりかえることはもちろん、他団体の報告を聞くことで自分たちの活動を見つめ直し、これから活動に対する励みを得た機会となつたようです。

また、午前と午後の部、それぞれの部において、団体同士の交流を深めることを目的とした情報交換会を前回に続いて開催。交換会では、他の団体の情報を聞くと参考になるという声が多数寄せられた他、団体同士の顔が見える関係ができていて、お互いが持っている資源を持ち寄って活用し合うことがしやすくなつた様子が見受けられるようになりました。

■社会の課題解決に向けてファンドを巣立つ団体も

ステップアップ支援プログラム2年目の継続審査では、「特定非営利活動法人ほっぷの森」と「特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ」の助成が決定しました。また、最終年度を終えた「特定非営利活動法人みやぎ発達障害サポートネット」と「特定非営利活動法人ネットワークオレンジ」が3年間の集大成をプレゼンテーションすると同時に、支援して下さった関係者への謝辞を述べたとたん、感極まって言葉に詰まってしまうというシーンも…。また、質疑応答の場面では、運用委員からファンドを巣立つ団体に向けてこれからの活動に対する温かなエールが送られました。(谷口恵子)



みんなでつくる NPO法人会計基準

12月8日(火)、NPO法人会計基準策定プロジェクト 全国キャラバン in みやぎ「みんなでつくるNPO法人会計基準~とことんききます!みんなの意見~」が、NPO法人会計基準策定協議会、(特活)社の伝言板ゆるる、(特活)せんだい・みやぎNPOセンターの3団体の主催、宮城県の共催により、開催されました。会場のみやぎNPOプラザには、NPO法人関係者や行政の担当職員など、33名の参加がありました。前半は会計基準策定の進行状況報告、後半は5グループに分かれて、意見交換が行われました。

■情報公開と会計基準

特定非営利活動促進法(以下、NPO法)は、行政の監督はできる限り排除し、情報公開により、市民の監視によって公益性を担保とする、画期的なものでした。つまり「良い活動をしている団体は透明性を高め、情報公開をしていく、活動の内容が評価されれば、会員や支援者が増え、団体が成長していく」。そして「あまりよくない活動をしている団体は、その内容が明らかにされれば、支援者は離れ、サービスを受けたいと思う人も減る。そして衰退していく」というものです。施行から11年、NPO法人は増加し続け、その活躍はマスコミに取り上げられない日がないほどです。NPO法人に寄せられる社会的期待も大きくなっています。

その一方で、NPO法人の事業の信頼性の向上が課題となっています。法人制度には会計の原則は定められていますが、統一された会計基準は定められていません。そのため、会計書類は法人によって表記方法がばらばらで、比較できない、資金の使途が分かりにくい、税理士が支援しにくいなどの問題が生じていました。そこで昨年3月に、NPO法人会計基準策定協議会とNPO法人会計基準策定委員会が作られ、今回のキャラバンを実施する運びとなりました。他人ごとと思わず、ぜひ皆さんも今後の展開に注目して下さい。(遊佐さゆり)

■詳細は「みんなでつくろう!
NPO法人の会計基準」のホームページをご覧ください。

<http://npokaikei.blog63.fc2.com/>

名取市 市民活動支援センター

2006年8月に開館した名取市市民活動支援センターは、2009年4月より、せんだい・みやぎNPOセンターが、運営の一部(情報・相談業務)を担っています。2009年11月には、開館3周年を記念したイベントも実施しました。

■情報収集・発信機能を強化

せんだい・みやぎNPOセンターは、名取市市民活動支援センター開館当初より、週1回の相談員派遣と人材育成のための事業を実施していましたが、2009年4月より、週4日スタッフを派遣し、運営の一部にも関わるようになりました。

その中で、まず取り組んだのが、地元の公民館との関係づくりです。名取市内には11の公民館があり、多くの生涯学習団体やサークルが活動をしています。公民館を訪問し、情報収集と関係づくりに力を注ぎました。各公民館が発行する「公民館だより」を、市民活動支援センターで掲示しています。そういう取り組みの中で、生涯学習から市民活動へと方向転換をしたいいくつかの団体が、拠点を公民館から市民活動支援センターへ移し、活動しています。

また、情報発信機能の強化にも取り組み、名取市市民活動支援センタースタッフブログを開設。名取市内の市民活動情報の発信に努めています。

■市民活動わくわくフェスタ

2009年11月14日には、名取市市民活動支援センター3周年記念「市民活動わくわくフェスタ」を開催しました。当日は、雨が降ったりやんだりと、あいにくの天気ではありましたが、フェスタに参加した市民活動団体の方々の他、出展企業の方々、近所の方々など、合わせて80名以上の参加・来場があり大盛況でした。

ボーカリスト名取第1団による「チャリティ芋煮」は、用意していた50食分が早々と底をつけ、特定非営利活動法人動物救護里親の会による猫の里親探しでは、4匹の子猫の里親が見つかりました。

市民の皆さんに市民活動を体感してもらう1日になったばかりでなく、市民活動団体同士や市民活動団体と地元企業の交流が生まれるきっかけになりました。(太田貴)

新たな協働に向けて、変わる4月からの仙台サポセン。

先日、河北新報社の朝刊に仙台市が2010年度の府内組織改編で企画調整局を新設する、という記事が掲載されていました。そのなかには、仙台市市民活動サポートセンター(以下、仙台サポセン)の所轄である「市民活動支援室」が「市民協働推進課」に格上げされ、市民活動の支援体制を充実するともありました。

当センターは、昨年行われた仙台サポセン指定管理者公募の審査を経て、2010年4月から5年間にわたり指定管理者として、これまでのよう仙台サポセンの管理・運営にあたることが決まりました。申請にあたって当センターが提案していた内容の柱の一つとして、仙台サポセンを市民協働の推進センターとして位置づけ運営に当たるという提案がありました。先日の新聞報道はまさにこの提案が活かされる、政策であると思います。

1999年に「市民協働元年」と仙台市が位置づけてから早11年、4月から新たな仙台市の体制がこのように変わることを受けて、当センターも仙台サポセンで新たな挑戦をしていきたいと思います。変化といえば、約3年になる「シニア活動支援センター」は、この4月から仙台サポセンの大きな事業の一つに組み込まれます。そこで、シニア活動支援センターで培った相談対応力を仙台サポセンの強みとして、市民の皆さんに強くアピールしていきたいと考えています。市民活動団体の立ち上げや運営に係るあらゆることについて、頼りになる施設となるよう心意気も新たに努めて参りたいと思います。また、多くの市民活動団体やテーマ別の各施設の皆様にも、ご支援・ご協力いただければと思います。

(仙台市市民活動サポートセンター担当理事 紅邑晶子)

仙台市市民活動サポートセンター

1999年に開館した仙台市市民活動サポートセンター(以下、サポートセンター)は、開館から11年目に突入します。これまでの管理・運営の実績を踏まえつつ、2010年度は次なるステージに向けて展開していきます。

特に、来年度から強化するサービスは市民活動に関する相談業務です。これまで、相談業務はサポートセンタースタッフが、日常的に窓口で対応してまいりましたが、加えて、個別相談会を定期的に開催します。「サポートセンターに行けば、解決の糸口が見つかることと言われるような、信頼されるサポートセンターを目指していきます。

また、地階の「市民活動シアター」では、外部の方をアドバイザーとしてお迎えし、市民の皆さんの表現の場として、市民活動シアターをもっと活用していただくためのプログラムを提供していく予定です。2010年4月からの、新しいサポートセンターにご注目ください！

(仙台市市民活動サポートセンター センター長 小松州子)

仙台市シニア活動支援センター

2010年以降の仙台市シニア活動支援センター(以下、シニアセンター)は、相談者の思いの整理、実現に向けて、よりきめ細かい応援体制を作っていく。

2007年のオープン以降、シニアセンターはおかげさまで多くの「リピーター」にご利用いただいています。その中で、時間をかけて思いを醸成し、イキイキと活動にチャレンジしている方が何人も登場しています。今後も相談者の信頼を得て継続的に施設を活用していただけるよう、段階に応じた支援メニューを効果的に企画運営していきます。

また、仙台市市民活動サポートセンターを始めとした、他関連機関・NPOとの連携の強化は不可欠です。「仙台のシニアは本当に元気！」と言われるような街を目指し、お互い協力し合っていきたいです。

事業の成果は、ホームページやブログなどでこまめに公開し、みなさんにしっかりとご報告していきますのでご期待ください！

(仙台市シニア活動支援センター センター長 真壁さおり)

生まれも育ちも多賀城です。体は小さいのですが、声と書く文字が(態度は?)大きいのでびっくりされます。趣味はスポーツ観戦で、プロバスケットボールチーム仙台89ERSの熱狂的ブスターです。明るく元気に頑張ります。
オバタ テルミ
小幡輝美
(勤務地:多賀城市市民活動サポートセンター)

はじめまして。蕎麦好き新人の佐藤です。皆さんご存知ですか？仙台には油で揚げた焼きそば風の日本蕎麦があるということ！サポートへ来れば新しい発見があるかも。もっと楽しく・安全で安心な街へ！一緒に新しい一步を踏み出しましょう。お待ちしています。
サトウヒテヨキ
佐藤秀之
(勤務地:仙台市市民活動サポートセンター)

みなさん、こんにちは！夏も、冬も、1年中ライフセーバーの吉田祐也です。モットーは「人を大事に！」ということで、家族・仲間を大切に生きてきました。これからも人のためをおもい、仕事をしていきますのでよろしくお願いします！
ヨシダ ユウヤ
吉田祐也
(勤務地:仙台市市民活動サポートセンター)

サポート・ご協力 ありがとうございます

■平成21年度会員(敬称略・順不同、2009年12月1日~1月31日)

(正会員)

(特)あいちNPO市民ネットワークセンター、くりこま高原自然学校、小島誠、小松州子、(特)市民フォーラム21・NPOセンター、(特)世界快ネット、増子良一、山岡義典、渡辺一馬

(準会員)

浅野裕子、(特)茨城NPOセンター・コモンズ、片平たてもの應援團、三浦隆弘

■企業・団体協力(50音順、敬称略)

岡元タイル(事務局スペースを社会貢献価格にて)、富士ゼロックス宮城(株)(カラーコピー機を社会貢献価格にて)

市民活動シアター3周年記念シンポジウム 呼吸するお寺、胎動するシアター

市民活動シアターのオープン3周年を記念して、大阪で寺院における芸術文化の先進的な取り組みを行っている、浄土宗寺院・應典院の取り組みから、市民活動シアターのこれから可能性について語ります。さらに、仙台で芸術文化の振興に取り組んでいる2名の方と会場からの提言を受け、市民活動シアターの具体的な活用法を考えます。

- ゲスト: 山口 洋典さん(浄土宗 應典院 主幹)
八巻 寿文さん(演劇工房10-BOX 2代目工房長)
柿崎 慎也さん(Feslab 代表/東北大大学院経済学研究科産業官連携研究員)
- 日 時: 2010年3月12日(金) 19:00~21:00
- 料 金: ¥500(1ドリンク付)
- 会 場: 仙台市市民活動サポートセンター
市民活動シアター
- 詳 細: 市民活動サポートセンターなどで配布しているチラシをご覧下さい。
- 締 切: 定員になり次第締め切らせて頂きます。
お早めにお申込み下さい。

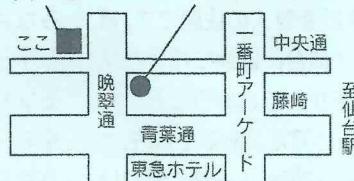
定員
60名

連絡先

特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター
〒980-0804 仙台市青葉区大町2-6-27 岡元ビル4F
TEL:022-264-1281 FAX:022-264-1209
E-mail:minmin@minmin.org HP:<http://www.minmin.org/>

発行: (特活)せんだい・みやぎNPOセンター

代表理事 大滝精一・加藤哲夫 1Fファミリーマート セブンイレブン
編集部: 小川真美・紅邑晶子
発行日: 2010年3月1日
デザイン: 氏家朗



岡元ビル4F 仙台駅から徒歩20~25分

加藤哲夫のNPO経営相談

開催日: 平成22年3月25日(木)

平成22年4月22日(木)

開催時間: 13:00~16:00

場 所: せんだい・みやぎNPOセンター

相 談 料: 2,500円(1時間単位、会員は500円引き)

※予約制です。まずはお電話を。

プロペラトーキス vol.5

開催を重ねるごとに固定ファンが増えつつある「プロペラトーキス」。今年度最後となる第5回目は3月中~下旬の開催を予定しています。

現在、興味深いお話をうかがえるであろうゲストに打診中。日時、会場、参加費など詳細が決まりしたい、当センターブログに掲載致しますので、今回もどうぞ期待ください。

| 編 | 集 | 後 | 記 |

ちょうど1年前のことでした。私が、この「みんみん」の編集にわるようになつたのは。あれから1年。執筆担当スタッフに原稿締切を守つてもらうべく、あまり良い気はしないだろうな、と思いつつ、期日通りにこのニュースレターを皆さんにお届けできるよう、お尻を叩き叩き何とか頑張つてもらつて。いつか、尻叩きなしでよい状態になるかと切に願いつつ、ちょっと諦めてもいる。ああ、せんだい・みやぎNPOセンター。苦笑。(OGAWA M)

1月は、年明け早々に当センター関係の新年会が2つありました。プロペラトーキスの拡大バージョンの新年会とシニア活動支援センターの新年会。いずれも参加者が70名から80名というものになり、わたしたちの活動が多くの方々に支えていただいていることを強く実感しました。このつながりの中から、社会を変えるアクションにつながる動きを生み出していくと、楽しいなと思います。そんなお知らせを次号できたらと思いつつ、わくわく度が日々高まっております。
(べにむらあきこ)